

社会教育委員会 会議概要

1	審議会名	第8期第8回社会教育委員会
2	日 時	令和4年11月14日(月) 午後1時30分から午後3時35分まで
3	会 場	南庁舎 S503会議室
4	出席者	竹花のり子委員 滝澤共子委員 西澤むめ子委員 上野勝裕委員 小平千文委員 宮下俊哉委員 山崎順子委員
5	市側出席者	上原生涯学習・文化財課長 宮崎生涯学習係主任 古平地域学校支援員
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和4年11月30日

協議事項等

1 開 会

2 あいさつ

3 会議事項

(1) 令和5年度組織改正について

(事務局) スポーツ推進課市長部局への移管について事務局から説明。

質問・意見

(委員) 学校体育というのはこれまで通り学校教育課所管で変わらないのか。

(事務局) 部活動を含めた学校体育については、引き続き教育委員会の学校教育課が担当する。

(委員) 社会体育館で地域のスポーツが行われている。スポーツ推進課が市長部局に移行しても、引き続き教育委員会との連携を大切にしてほしい。

(事務局) 生涯スポーツの振興ということで、変わらずに市民の皆様の地域スポーツについては教育委員会と連携を取りながら進めていきたい。

(委員) 今、学校の部活動が地域移行に進んでいる。市長部局に移管後、どのように連携を考えているか。

(事務局) 国からは、令和5年度から3年間で中学校の部活動の地域移行を進めるという通知がきている。学校教育課が主担当となり、すでにスポーツ推進課も加わり準備を主導して進めている。移管後も、地域のスポーツ団体との繋ぎ役等を行っていききたい。

(委員) 前回、部活動の地域移行がなかなか上手くいかなかったと聞いた。国を挙げて移行するということになっているので、難しい部分はあると思うが、上手く繋いで子どもたちが将来活躍できるということを念頭に置いて進めていただきたい。

(委員) 交流文化スポーツ課とスポーツ推進課との違いがわかりにくかったが、組織改正でわかりやすくなる。市民にとっていいことだと思う。

(事務局) 市民の方からわかりづらいという声もあり、取次が上手くいかない面もあった。仕事の内容的にも完全に一つの課になるので、我々も期待している。

(委員) 文化スポーツ観光部というのは、これまでの観光課とも一緒になるのか。

(事務局) 市長部局に新しい部ができ、「文化政策課」「スポーツ推進課」、シティプロモーションの一部を観光課に一任した「観光シティプロモーション課」、それから「サントミュージゼ」、「美術館」が一つの部となる。観光面と文化スポーツ面の連携をより強化していくための組織改正。

(代表) ありがとうございます。配布された資料については取扱いに注意していただくようお願いします。

(2) 第8期社会教育委員会提言に向けて

・提言の最終確認について

(代表) 今日で最終の会議となる。一度送付したのから多少の変化があり、事務局から説明していただきながらやっていきたい。

(事務局) 今回、構成を変えたところがある。ただし、テーマごとの提言内容については、一切変更していない。これまでは提言の鏡文に提言の内容を盛り込んだ形で提出してきているが、今回は鏡文と提言書を分けている。

提言の組み立ても変え、まず提言をしていくにあたってそれぞれのテーマの前文として、課題・背景を、2ページに並記した。この現状と課題の分析を踏まえた上で、3ページ以降、各テーマにつ

いて課題に対する今後の方向性を示すという提言の構成とした。また、「はじめに」で代表から提言を取り纏めるにあたっての経過を、「おわりに」は代表からのメッセージとして記載している。最後、7 ページは提言作成に当たっての取組経過、8 ページは委員の名簿で締めさせていただくという構成で提言書を作り込んでいる。

今回は最後の確認の場となるので、各内容について事務局の方で朗読し、最終確認をしたい。

(代 表) このような構成で組み立てていきたいということで、よろしいか。

(事務局) 1 ページ「はじめに」朗読。

(委 員) 最後の文章に、「、」が非常に多いが、どこかで切ったほうが良いかと思う。

(代 表) 「評価しつつ」の後ろの「、」も取れる。

(委 員) 「、」ではなく「・」にしておく手もある。

(事務局) では、「公民館、図書館」のところと「充実、発展」のところをそれぞれ「・」に置き換えさせていただく。また、「評価しつつ」の後ろの「、」は取ることにする。

(委員了承)

(事務局) 2 ページ「現状と課題分析」朗読。

(代 表) 平成 28 年度には、(コミュニティスクールは) 市内全ての小中学校に導入されたということで良いのか。「学校」ではなく「小中学校」とした方が良いのではないか。

(委 員) 良いかと思う。

(委 員) コミュニティスクール導入というのは、ここで学校運営委員会も導入したということか。

(事務局) 制度の導入と組織として備わるというのは時間的なズレがある。運営委員会や協議会が出来て、ボランティアの仕組みも併せてできるということがコミュニティスクールの全体像ではあるが、一気に完成はできない。過程は学校ごと異なり、組織が動き始めたタイミングは導入より時間がズレていることもあるかと思う。

(代 表) 県の方から平成 28 年度で設置や導入したという言い方で説明された覚えがある。長野県は平成 28 年度をスタートの年として捉えている、と。

(事務局) 3 ページ「1 コミュニティスクール、地域学校協働活動の推進について」朗読

(事務局) 補足します。今回「現状と課題分析」と「今後の方向性」を分けたこともあり、「CS」という表現はすべて「コミュニティスクール」に置き換えている。「コミュニティスクール」という表現の省略が可能のところは一か所省略しているので、ご承知おきいただきたい。

(委 員) (1) の下から 4 行目にある「障害」は、法律や条文では漢字かと思うが、最近ではひらがなで「がい」と表現するようになってきている。どうか。

(事務局) ひらがなにさせていただきます。

(委 員) (1) の一番下。「子どもを真ん中にしながら世代や属性を超えて」とあるが、「属性」とは何のことか。どう理解したらいいか。

(委 員) 色々な立場の方、高齢者や障がい者、色々な方達が交わる中で、そういったものを超えて、というイメージで「属性」とした。

(委 員) 読んだ方がイメージできれば良いが、その前に「子どもを真ん中にしながら」という柔らかくかわいらしい言い方があって、その後「世代」、「属性」と来たので具体的にイメージしにくい気がする。

(事務局) この部分は「ソーシャルインクルージョン」「社会的包摂」のような話で、色々な人たちを迎い入れようというときに、最近よく使われるようになった言葉。「世代」だけだと年齢のみなので、性別、社会的背景、収入、全て包含した言葉として入れたが、「属性」というと難しい感じがするのは確か。言いたいこととしては性別、職業、収入などを超えて関わってもらいたいということ。

(委 員) 「子どもを真ん中に」という柔らかい雰囲気でも、他も難しい言葉を使わないようにして提言が作られていると感じている。「様々な立場」等、違う言葉を代わりに置けないか。それか、「多様な立場」。多様というのは普通に使う言葉なので、柔らかい気がする。

(事務局) ただ、「多様」な「立場」だけなのか。「多様な世代」とは言わないかとは思いますが、どうか。

(委 員) 「世代」をやめて、「子どもを真ん中にしながら多様な交流をし」はどうか。「世代」も含めて「多様性」という言葉を入れてみる。

(事務局) 「多様性を尊重して交流し合う」ということで良いか？

(代 表) では、「世代や属性を超えて」という部分を「多様性を尊重して」という文言に変えるということ。

(事務局) 4 ページ「地域住民とつながる広報のあり方について」朗読

(事務局) 補足すると、前回の会議で「図書館のデジタル化」と「紙ベース」という話があった。元々 (2) にその部分が入っていたが、分けさせていただき、(3) のデジタルとアナログの融合という形にしたのでご承知おきいただきたい。

(委 員) 大きな見出しで、「地域住民と公民館がつながる広報のあり方について」、あるが、これを見ただけでは市の「広報うえだ」混同してしまう。たとえば、「地域住民と公民館がつながる公民館だより」や「公民館の広報のあり方について」、「広報 (公民館だより)」等。どうか。

(事務局) 広報を「公民館だより」という言い方をしているが、SNS も含めた広義の広報の捉えではある。ただ、すぐ思い浮かぶのが「広報うえだ」でも困ると思う。実際「広報うえだ」は、「公民館だより」

で出したものについて載せられない。「広報うえだ」にも公民館関係の記事が載ることはあるので、「公民館だより」だけではなく「広報うえだ」も含めた広義的なものとして捉えていただいても良いと思う。

(委員) たしかに広報は広義の意味もあるが、見出しの 2 のところを「地域住民とつながる公民館広報のあり方」にするのはどうか。そうすると、公民館広報についてのことだとわかる。

(事務局) 5 ページ「デジタル化社会における市民のための図書館づくりについて」朗読

(事務局) (1) の 2 行目から 4 行目まで文章が切れることなく続いている。どこかで切っていただけるとありがたい。

(事務局) 「全ての人に」の前で切れるということ。「困難になるだけに、全ての人に」と区切らせてもらうと。

(委員) 今のところで一回文章を切ってもいい。「困難となります。」で、「。」で切る。

(代表) 今、2 つ案をいただいた。「なるだけに、」で「、」を入れるか、「困難となります。」で一度「。」を入れるか。

(委員) 「困難となります。」で「。」で閉じてしまって良いのでは。

(代表) はい。他にありますか？

(委員) (1) 最終段落に「国立国会図書館では」とある。「デジとしょ信州の取組が始まっています、そのような体制づくりに取り組まれることを求めます」というのは、上田市もすでにやっていて、それをもっと充実させるということか。

(委員) そう。今長野県でやっているものの充実を図るということ。長野県のものも本当に始まったばかり。呼びかけは良いが、利用する範囲が狭い。

(事務局) 国立図書館、県立図書館の例を挙げているので、市立図書館も同じようなことをしてほしいということか。それを「体制づくり」とするのか、「施策」なのか「取組」なのかというところ。理想論は別として、市町村単独では無理なので、県のネットワークに乗っている形。市町村ごとに実施することはなかなか難しい。

(委員) 県は県独自の特徴をもって本を選んでいる。上田市は、上田市なりの特徴をもって、独自で開発していくのが一番良い。

(事務局) 「デジとしょ信州」に、(2) にあるような上田独自の資料も載せることができれば、市町村独自でなくても良いということか。

(委員) その通り。

(委員) 「そのような体制づくりに取り組まれることを求めます」という文章だと、上田市でまだやってないと取られかねない。上田市も入ってやってはいるんだけど、それを充実させてほしいということか。

(委員) 結局これは、高齢者が図書館を利用できないとか障がい者の人たちが利用できないとか、様々な理由でもって図書館を使いたくても使えないという人たちに平等に本が読める環境づくりをしてほしいという意図。そのひとつのきっかけとして国や県のデジタル図書館がある。県もまだ十分対応しきれていないというか、当然それを受けた地方の図書館もそれを反映して、一歩でも半歩でも良いから充実の方向で動いてほしい。

(事務局) 県と市町村協働でやっている図書館が「デジとしょ信州」。ここでは市町村と協働の取組が始まりました、さらなる充実を望みます、というのはどうか。

(委員) 今の部分を使って、「そのような取組を充実させていただくことを求めます」とか。やはり充実させていくことを求めていく、ということだと思う。

(代表) それでは今まとめていただきました。「デジとしょ信州」のところにも「市町村と協働で」と入れるということですよ？それと、最後の「取組が始まっています。そのような取組を充実させていくことを求めます」と。よろしいですか？では、次をお願いします。

(事務局) 6 ページ「おわりに」朗読

(委員) 上から 2 行目のところの「試行錯誤を重ねながら、日々、努力を重ね」と、「重ね」が重なっている。

(代表) 「試行錯誤をしながら」が良いか。では「重ねながら」のところを「試行錯誤をしながら、日々、努力を重ね」という形に直させていただく。

(委員) その続きで、「様々な課題」とあるが、「さまざま」とひらがなにしたらどうか。

(事務局) 公用文では漢字なので、ここは漢字でお願いしたい。

(代表) では、7 ページについて事務局から説明をお願いしたい。

(事務局) 7 ページでは取り組んできた会議の内容をお示ししているので、承知だけいただければと思う。一番は 8 ページの方で名簿を載せているが、様々な役職をお持ちの方に関してこちらの判断で代表的なものを選んで載せさせていただいている。この団体名なり役職名に直したほうが良いというご指摘があればお願いしたい。

(各委員の役職を確認)

(代表) 全般を通して、御意見があればお願いしたい。

(委員) 5 ページのところ、「体制づくり」という言葉は省いてしまった。しかし「そのような体制づく

りのさらなる充実を求めます」と、「体制づくり」は説明でも重要なところなのでやはり入れておいた方が良いのではないかと。

(事務局) 変更後は、「取組が始まっています。そのような取組を充実していくことを求めます」で、「体制」となると「デジとしよ信州」を市単独で求めるようなイメージになってしまう。結果的にはそれも「充実」という中に含まれてくるが、あくまでそういうものありきではなく「デジとしよ信州」に色々なものを載せて充実させていければ、という方向の話をした前段を踏まえ、このような「取組を充実させていく」という表現をしていければと思う。

(事務局) 5 ページの (2) が、いきなり「その確立のためには」から始めてしまっているのか伺いたい。長くなるけれども「地域のアイデンティティを確立する図書館づくりのためには」とするかどうか。

(事務局) ここはその言葉自体を外してもいいかと思う。タイトルで目指しているものの解説なので。「それぞれの地域にある」から始めても充分通じるかと思うが、いかがか。

(委員) では、(2) のタイトルの後は、「それぞれの地域にある」から入っていくということによろしいか。

(委員了承)

(委員) 6 ページの「おわりに」の下の方で、「願って」というのが 3 回出てきている。別の言い回しにしたらどうか。

(委員) 「期待して」はどうか。

(委員) 今のご意見をいただいて、「願う」が 3 つ続いてしまうので、最後を「上田市の教育のより一層の発展を期待し提言書といたします」としたい。

(事務局) 一点、「地域社会を力強く推進する」という表現について、違和感がなければ良いが、いかがか。

(委員) 「推進し」という言葉が、すでに始めていることでもあるので、例えば「牽引する」等別の言い方が適当じゃないかと指摘もあった。

(委員) 確かに「地域社会を推し進める」とは言わないかもしれない。

(委員) 地域社会の何を推進するのか、ということ。

(代表) では、「子どもたちをはじめ、地域の力になることを願い」というのはいかがか。

(事務局) あとは「願い」という部分をどうするか。印象とすると、「上田市の教育のより一層の発展を願い」の方が、比重が大きいと感じる。前の方を「力となることを期待し」など、逆にした方が良いかと思う。

(委員) 終わりを「願い」とする方が、私も落ち着くと思う。

(代表) もう一度確認すると「上田市の社会教育の取組の更なる充実が地域の力になることを期待し、上田市の教育のより一層の発展を願い提言書といたします」。ですね。

(事務局) 提言の最後の終わり方について。コミュニティスクールの提言の文末が、客観的な「重要だと考えます」等という言い回しになっている。公民館は投げかけるような疑問形で、図書館は「求めます」という強い意志を感じる終わり方。それぞれの個性でもあり、統一する必要があるかはわからないが、表現を揃える必要があるかどうか伺いたい。

(委員) 提言なので、違っていても良いのでは。他の部署で出す提言書はどのような形か。

(事務局) それぞれかと思う。

(委員) では、色々ということできましょう。

(委員) 「おわりに」の最後の部分。「提言書」ではなく「提言」ではないか。

(代表) では、最後の「書」は取り、「提言といたします」ということで。

(事務局) これで最終確認とさせていただく。修正後、代表と代表代理に御確認いただき、最終確定とする。中途半端に終わった部分はないので、ほぼこの通りの内容になるかと思う。後日、最終段階のものをお送りするので当日お持ちいただきたい。また、12月16日の懇談会では各グループの代表の方に要点の発表をしていただくことになるのでよろしくお願いいたします。

・教育委員との懇談会（提言提出）の進行について

(事務局) 教育委員との懇談会場は 202・203 会議室だが、集合の部屋は 201 会議室。

進行としては、代表の竹花委員の方から提言書に関する総括的なお話をして頂いたうえで、各グループの項目のご説明を頂く。グループの代表者は 2 分以内で要点をご説明いただき、残る懇談の時間で補足があれば追加していただきたい。他の委員の皆様も、思いがありましたらその場で御発言ください。懇談会については竹花代表のほうで進行のうえ、代表の方から他の委員さんへ質問の回答を振っていただく。

- ・二十歳を祝う式について
- ・上小社会教育委員連絡協議会 会報について
- ・長野県社会教育委員連絡協議会で作成している「社会教育委員の手引き」について

5 閉会

6 閉 会